

真岡市地域公共交通活性化協議会

平成22年2月12日設置



概 要

真岡市は、9割強の住民が移動に自家用車を利用している状況であり、今後、少子高齢化が進む中、市民が安心して生活ができる利便性の高い移動手段の確保が重要となっている。市民ニーズに合った公共交通システムを構築するため、市民との意見交換会の実施、真岡鐵道、関東バス、東野交通への利用実態把握のためのヒアリング等を実施し、総合連携計画の策定を行う。

○地域公共交通の現況

- 鉄道は、市内に真岡鐵道の6駅がある。
- 路線バスは、民間バス事業者2社が5系統を運行。

○地域公共交通の課題

市内を巡回するバス路線はなく、交通不便地域が多く存在している。
また、平成21年度に実施した市民意向調査では、9割強の市民が移動手段に自家用車を利用しているが、一方で新たな公共交通の整備が必要であると答えた方は、5割強であった。
今後さらに高齢化が進む中で、市民の移動手段は自家用車から公共交通へ移行すると予想され、利便性の高い移動手段が必要となっている。
調査内容について記載

○調査の主な内容

- 住民ニーズ把握調査(平成21年度に実施した市民アンケート調査結果から住民ニーズを把握)
- 地区意見交換会(地域ごとに市民の要望・期待を汲み取り、利用しやすい公共交通のあり方を検討する)
- 現況交通実態調査(交通事業者へ利用実態等のヒアリング調査を実施する)
- 公共交通先進地への視察(本計画策定や今後の公共交通サービス運営の参考となる先進地への視察)
- 関連資料の収集・分析、及び、計画の検討・作成

○地域公共交通総合連携計画の策定

- 新たな公共交通の整備
公共交通不便地域の解消、中心市街地へのアクセスの確保
- ニーズに対応した段階的な整備、持続的な運営
- モビリティマネジメントの展開
公共交通のネットワーク化、真岡鐵道・既存の路線バスとの連携

